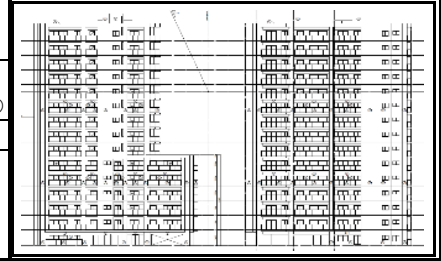




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)南6条西16丁目計画 新築工事	階数	地上15F 地下階
建設地	北海道札幌市中央区南6条西16丁目1344-9,-13,-16	構造	RC造
建物用途	集合住宅	平均居住人員	55人
竣工年	2025年1月 予定	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
敷地面積	1,991 m ²	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	552 m ²	評価の実施日	2023年3月2日
延床面積	6,198 m ²	作成者	
		確認日	2023年3月31日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健) 2.1, 4(教育) 2.6, 5(ジェンダー) 3.0, 6(水・衛生) 2.4, 7(エネルギー) 2.5, 8(経済・雇用) 1.9, 9(イノベーション) 2.6, 11(都市) 2.1, 12(生産・消費) 2.2, 13(気候変動) 2.1, 15(陸上資源) 1.9, 17(実施手段) 2.2

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 3

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.96**

ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

総合 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	A 省エネルギー BEI = 0.96
B 省資源等 ODP=0、GWP=11の発泡剤を用いた断熱材を採用。 LGSを採用し、GL工法も採用している。	C 緑化 特になし。
D 蓄処理 特になし。	

4 ほかの認証・評価制度の利用

(一財)住宅・建築 SDGs 推進センターのCASBEE認証	なし	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	なし				

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■環境品質Q = 25 × (Qのスコア - 1)、環境負荷L = 25 × (5 - LRのスコア)より算出

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								

4.3 運用管理					-		-		
1	CO ₂ の監視		-		-		-		
2	喫煙の制御		-		-		-		
Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.0	
1 機能性					2.2	0.40	2.8	1.00	2.7
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性		-		-		-		
2	高度情報通信設備対応		-		-	3.0	1.00		
3	バリアフリー計画		-		3.0	1.00	-		
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観		住居・宿泊部の天井高2.5m以上。		-	4.0	0.50		
2	リフレッシュスペース		-		-	-	-		
3	内装計画		-		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					2.5	0.30	-		
1	維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50	-		
2	維持管理用機能の確保		-		2.0	0.50	-		
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-		
2	免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-		
2.2 部品・部材の耐用年数					3.3	0.30	-		
1	躯体材料の耐用年数		住宅の品質確保の促進に関する法律(日本住宅性能表示基準、3.劣化の軽減に関する事)における木造、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準(平成26年国土交通省告示第151号)で等級3相当		5.0	0.20	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	-		2.0	0.20	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	-		2.0	0.10	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	-		3.0	0.10	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用		4.0	0.20	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	-		3.0	0.20	-		
2.4 信頼性					3.0	0.20	-		
1	空調・換気設備		-		3.0	0.20	-		
2	給排水・衛生設備		-		2.0	0.20	-		
3	電気設備		-		3.0	0.20	-		
4	機械・配管支持方法		耐震クラスA(Bクラスに加えて、大きな補修をすることなく重要な機能が確保できる。)または、動的解析を行った上で設計用水平震度KHを1.5以上としている。		4.0	0.20	-		
5	通信・情報設備		-		3.0	0.20	-		
3 対応性・更新性					3.0	0.30	3.5	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり						-	4.0	0.50	
1	階高のゆとり		2.9m以上、3.0m未満		-	4.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ		0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3		-	4.0	0.40		

3.2 荷重のゆとり			—		-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性		—	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		—	3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		—	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出	緑化	—	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	緑化	—	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雷処理	—	3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	—	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.2
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI= 0.00 品確法= 等級4 日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。	4.0	0.20		-	4.0
2	自然エネルギー利用	省エネ	—	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	省エネ	BEI= 0.96 —	3.4	0.50		-	3.4
4	効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価					-		-	
4.1	モニタリング	省エネ	—		-		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—		-		-	
集合住宅の評価				3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ	—	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—	3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.0
1	水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1	節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(擬音、節水型便器など)などを用いている。	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		—	3.0	1.00		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		—	-	-		-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60		-	2.8
2.1	材料使用量の削減	省資源	—	2.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源	—	3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	—	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	—	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源	—	2.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	LGSを採用し、GL工法も採用している。	5.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			-	3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70		-	
1	消火剤	省資源	-	-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0かつ、GWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材等を使用している。	4.0	0.50		-	
3	冷媒	省資源	-	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	3.1
1 地球温暖化への配慮		省資源	-	3.5	0.33		-	3.5
2 地域環境への配慮				2.9	0.33		-	2.9
2.1 大気汚染防止		省資源	-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 緑化 雪処理	-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	-	2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音		-	3.0	1.00		-	
2	振動		-	-	-		-	
3	悪臭		-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		-		-		-	
3	日照阻害の抑制		-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要		BEE	1.1	BEEランク	B+
建物名称	(仮称)南6条西16丁目計画 新築工事				
建物用途	集合住宅				
延床面積	6,198.3 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理 省資源等への取組 緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★★☆	
	雪処理	★★★☆☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー (最高点 43.1 最低点 11.5)				合計		30.9点 /43.1点	
Q1 温熱環境	スコア	13.4	/16.8	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.2	/4.0
Q1 光・視環境	スコア	3.9	/6.3	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	/2.0
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	6.8	/10.0
				LR1 効率的運用	スコア	2.4	/4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)				合計		14.6点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6	/1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0	/9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	/2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.5	/1.9
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.5	/5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.6	/4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計		8.3点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.8	/4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5	/2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6	/6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	/2.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計		0.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.0	/2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数